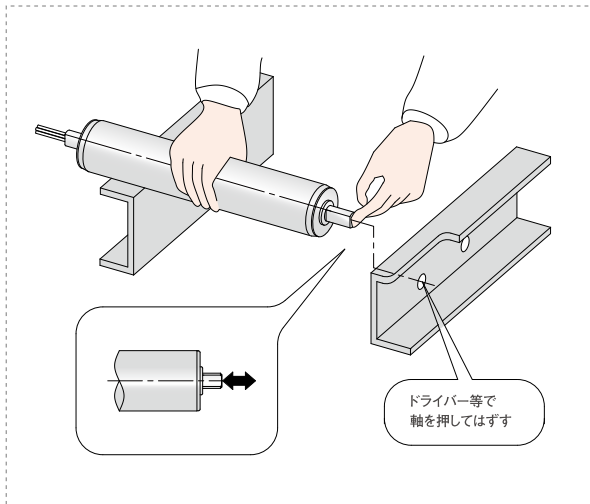


設計上のご注意

1 取付方法

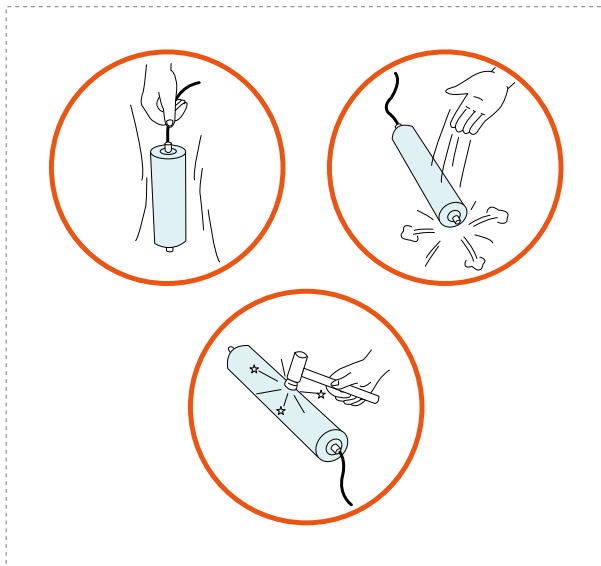
- リード線の反対側のシャフトがへこんでワンタッチで取付出来ます。
- 取り外しの際はドライバー等で押して外してください。



- モーターローラの外径と軸径がフリーローラと同径の場合はフリーローラの軸穴をそのまま利用できます。
- 寸法が異なるときはフレーム軸穴を変更してフリーローラと搬送面が揃うようにしてください。

2 取扱い上の注意事項

- リード線による持ち運びや、ぶつけたり落としたりしますと内部の故障の原因となりますので十分ご注意ください。また、リード線の被覆を傷つけない様ご注意ください。



3 インバーターの使用について

- 単相機種及び3相380V以上の電圧仕様のモーターローラにはインバーターによる駆動は行わないで下さい。
- インバーターと組み合わせるとトルクが低下します。30Hz～70Hzが推奨使用可能範囲となります。

4 サージ対策

- モーターローラをオンオフすると瞬時ですが、サージが発生します。(数千ボルト)
- サージはモーターコイルに悪影響を及ぼし、耐久性を短くします。
- 対策としてオンオフ開閉に無接点リレーを使用するかマグネットリレーとモーターローラの間にはサージアブソーバを取り付けてください。

5 拘束について

- 万一通電状態で短時間拘束されてもコイルが焼損することはありませんが、繰返し拘束されますとコイルが温度上昇し、徐々に絶縁部分が劣化してモーターの焼損の原因となります。拘束状態が数秒の場合は、モーターローラの電源を切る必要はありませんが、10秒以上ロックされる場合はリミットスイッチやリレー等で非通電にするか、アキュムタイプ(MRA)を御選定ください。

型 式	拘束時間
標準(MRS)	突発的拘束許容時間 約20分
アキュム(MRA)	連続拘束可

6 温度に関して

- モーターローラの使用温度は周囲気温-10℃～40℃の範囲でご使用ください。
- 通常運転時にはモーターローラのパイプ表面温度が周囲気温+20度(高トルクの場合は+35度)上昇しますが焼損の心配はありません。
※拘束した場合は80度位まで上昇する場合があります。

7 接続部速度差

- 同一ライン内や接続部分で搬送速度が変わる場合、急激な速度変更はモーターローラに強い衝撃を与えますので避けてください。
- 搬送条件により異なりますが、おおむね50%以内なら支障はございません。